

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054		
法人名	株式会社 よろこび		
事業所名	グループホーム よろこび (2)		
所在地	〒824-0512 福岡県田川郡大任町大字大行事4125番地1 TEL 0947-63-3555		
自己評価作成日	令和04年02月25日	評価結果確定日	令和04年04月07日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和04年03月31日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園に囲まれた静かな地域で、季節の変わり目が見える環境にあります。日常生活の中でできる限り自身の機能を使うように支援していくことで多くの方が身体機能が維持・向上しています。お風呂はリフトを設置しており、浴槽へのまたぎが困難な方でも、ゆっくり湯船に浸かることができ、とても喜んでいただいています。コロナ禍でご家族様と会ってお話する機会は減っていますが、電話や手紙で利用者様の状況を伝える機会を作っており、ご家族様との関係性も良好です。利用者様、ご家族様、地域の方々からの「ここで良かった」「嬉しい」という言葉がたくさんいただけるような支援に取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

3評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>念に基づく運営</b>				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内3カ所に基本理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。朝礼時に勤務者全員で唱和し、理念に基づいたケアを行うように努めている。		
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、外出する機会や外部の方を呼ぶ行事がなくなり、地域の方と会う機会が減った。行事が再開され次第、外出を増やし外部の方に来ていただき交流をしていきたい。		
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談の電話や直接来所されることがあり、いつでも相談に応えられるよう心掛けている。相談内容によってはアドバイスや他事業所への紹介を行っている。		
3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議は新型コロナウイルス感染防止の為、開催できていない。民生委員、役場担当者、包括職員、ご家族様には資料配布にて報告している。ご家族様や包括職員には来所や電話時、封書にて意見やアドバイスを頂き、日々のサービスに繋がるようにしている。		
4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者や包括職員に運営推進会議資料を配布し、意見を伺っている。包括職員からは1つ1つの内容に対し細かく意見やアドバイスを頂いている。役場や包括へ行く機会も多く、すぐに相談できる関係性がある。		
5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、19時以降は施錠しているが、日中は開放している。利用者様が外に出たい時は一緒に出掛けるようにしている。身体拘束をしないようなケアについては日頃より職員会議やヒヤリハット報告時、申し送り時等で見直しを行っている。また、定期的な研修を実施し、理解を深めている。		
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた内部研修の実施や外部研修(今年度はWEB研修)への参加を行い、正しい理解と共有を行っている。日頃より利用者様の人権を尊重した対応を心掛け、虐待が発生しない環境作りに努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	現在まで制度を利用した例はないが、今後必要となった時には迅速に対応できるように、日常生活支援事業、成年後見制度についての資料を準備している。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が契約書の内容の説明を行っている。その際、入居後に予想される、事故やトラブル、認知症周辺症状の悪化等についても事前に説明し、理解・納得をして頂いている。又、入居前に不安な点や疑問についても尋ねるようにしている。		
7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、意見や要望があった際には、意向に沿うように努めている。ご家族様には来所時や電話連絡時に意見・要望等が気兼ねなく言える雰囲気作りを心掛けている。		
8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は毎月の職員会議で聴取したり、日々管理者が職員より意見を聞くようにしている。必要に応じ毎月の管理者会議や必要に応じて即時に代表者に相談報告し改善努力している。		
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員と面談を行っている。年に3回勤務評価を行っている。それに基づき、職務状況の把握、就労条件の改善に努めている。		
9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢の制限は行っていない。向上心を持って働けるよう、相談・助言を行い、希望する研修や資格取得に向けての支援も行っている。		
10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理や虐待防止の研修を行っている。ヒヤリハット報告時には即座に対応策を検討し、事故を未然に防ぎ、人権・尊厳を守る対応に努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社は新人研修カリキュラムに沿って研修を行っている。外部研修はコロナ禍の為、減っているが、Web研修に参加したり、毎月実施する内部研修により知識・技術の向上に努めている。また、研修後は報告書作成により研修内容の再認識を行っている。今年度は職員1名が介護支援専門員の試験に合格しました。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため交流する機会は減りましたが、電話等にて面会の対応や施設内での感染対策等への情報交換を行っている。		
<b>心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院に出向き、本人の気持ちを聞いたり、生活している環境を把握するようにしている。又施設に見学に来てもらい雰囲気を感じて頂くようにしている。ご家族様や関係者にも様子を伺い情報を集め、入居後スムーズに施設での生活に慣れて頂けるよう環境整備を行っている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様と話す機会を多く持ち、ご家族様の不安や意向をしっかりと聞くようにしている。入居後は来所時や必要によっては電話にて、生活状況を伝えている。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご本人様、ご家族様、職員が話し合い、ニーズに基づいた支援内容を検討し、サービスの提供が出来る様に努めている。入居後に気付いたことがあれば、すぐに支援内容の見直しを行っている。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話を大切に、何を思い、感じているかを考えながら接している。自分で出来る事はして頂き、出来ない事をサポートしている。又、得意なことなどスタッフに教えて頂いたりしている。何でも言える関係性を築けるように努力している。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため、現在はご家族様参加の行事は開催できていません。その為、面会時(現在は窓越し面会)、電話や月1回のお便りを送る際に手紙を添え、本人様の状況を共有している。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になる前は近所の知人が来られたり、馴染みの商店や美容院に出かけたりしていたが、現在は電話や窓越し面会や受診の帰りに家の近所を通過して帰るなどの支援を行っている。		
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、相性を考慮しトラブルにならないように、朝礼や職員会議の際に情報共有を行っている。職員は和やかな雰囲気になるよう、会話の橋渡しなどを行っている。利用者様同士で声を掛け合ったり、一緒にお手伝いをしたり、レクや体操を行っている。		
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者のご家族様とは連絡を取り合っている。電話や手紙のやり取りや、来所して頂く事もあり、関係継続している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、利用者様の思いや気持ちの把握に努めている。意思表示が難しい場合には表情や動作で気持ちを汲み取るように努めている。又ご家族様とも相談し、その人らしい生活ができる様に支援している。		
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴を利用者様・ご家族様・関係者等から聞き取りを行い情報収集し、入居に至るまでの経過を把握するようにしている。入居後は日々の会話の中から生活歴を把握する様努めている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の望む生活を尊重し、日々少しでも変化や気づきがあれば記録し、申し送り等で職員間の情報共有を図っている。		
13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて個々の課題を話し合っている。計画に沿ったモニタリングを介護職員も毎月行っている。又家族には来所時や電話連絡時に意向を伺ったり、医療関係者からのアドバイス等を反映させ介護計画を作成している。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行うよう努力している。日々の訴えや行動、スタッフがかけた言葉等、細かく記録するようにしている。状況の変化を職員間で情報共有し、計画見直しに反映させている。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況の変化を把握し、職員でその都度話し合いをし、その時々に必要なケアを行うよう努めている。現在はコロナ禍で外出は減っているが、買い物等希望時は一緒に出掛けるようにしている。		
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出する機会が減っているため、施設内での行事や生活の様子を毎月のお便りや運営推進会議資料等でお知らせしている。笑顔が多くなるような支援に努めている。		
14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様が入居前に通院していた病院に現在も受診している。コロナ禍前は状態変化時にはご家族様も受診同行して頂いていたが、現在は受診後に電話にて受診内容の報告を行い、適切な医療が受けられるよう連携を図っている。		
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護による体調管理を行っている。緊急時や相談時には常時対応してもらっている。相談しやすい関係であり、連携が取れている。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者に早急に情報提供が行えるよう、入院時はご家族様と共に病院に行き、主治医・担当看護師・ソーシャルワーカー等と面談している。早期退院と円滑な受け入れが行えるよう、電話による近況報告を受けたりしている。		
15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成している。急変時及び終末期における医療や介護に関する事前調査書での意思確認を行っている。施設でできること、できないことを伝え、終末期にはチーム支援を行えるよう体制作りに取り組んでいる。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、連絡網作成している。急変時・事故発生時の対応についての研修を行っている。又、日頃少しでも体調変化が見られた場合には急変時の対応について即座に検討している。		
16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外出を利用し、車への乗込みを含めた避難誘導訓練を行っていたが、現在は建物外への避難、消火訓練しか実施はできていません。梅雨時・台風到来時期には近くを流れる川が増水する為、隣接する特養と市町村との話し合いで、洪水災害時の対応(感染症対策をふまえて)を検討し、具体的マニュアルを作成した。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の基に人権やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。日頃より個々に応じたその時々言葉かけなど職員間で話し合い、対応をしている。		
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、個々の思いを理解するように努めている。言葉が上手に出ない方には「はい」「いいえ」で応えられるように問いかけたり、表情を見て思いを汲み取るようにしている。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や心身の状態に応じ、その時したい事を尋ね、希望に添える様に支援している。言葉に出せない方には表情や動作を見て、接している。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選んでいる。自分で選べない方はTPOに合わせた洋服に着替えている。受診や行事の際には自分でお化粧や髪の毛のセットをされる方や毎日しっかり顔のお手入れをされる方もいます。希望時には美容院に来ていただいたり、行ったりします。男性の髭剃りもこまめに声を掛け手入れをして頂いています。		
18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を一緒に考えたり、旬の物をメニューに取り入れている。自宅で採れた野菜等の頂き物も時々あり、利用者様と一緒に下処理をしたりします。下膳の協力もあります。感染防止の為現在は利用者様と職員と一緒に食事をすることはなく、外食も出来ませんが、鍋や鉄板を使った料理、手作りのおやつなど楽しく食事が出来るように努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や形態に配慮している。バランスの良い食事となるよう献立を作成し、使用した食材を記録している。水分量のチェックも行い、管理している。食欲が低下された方には、栄養価の高い物や、ご本人様が食べられる物に代用しエネルギーを補うようにしている。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に個々に応じたケアのアドバイスを受けている。毎食後、個々に応じ、歯間ブラシやスポンジ・口腔ケアウェットティ等を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		
19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。		
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事提供に心掛けている。水分摂取量もチェックし適度な水分を摂って頂くよう支援している。便秘傾向の方は主治医や訪問看護師と相談し、下剤の調整を行う事もある。		
20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。極力本人の希望の時間帯に合わせ、毎回時間調整している。現在3名の方がリフト浴を行っており、ゆっくり湯船に浸かることが出来ている。		
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、居室やソファで休息できるようにしている。夜間不眠の場合は、日中の過ごし方について、朝礼や職員会議時に検討し、支援に取り入れている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認できるように事務所に設置している。薬の追加や変更時は薬効・副作用・用法・用量を申し送り簿に記載し情報共有している。薬チェックリストを活用し、投薬間違いがないように努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を考慮し、状態に応じた活動を行う様になっている。その時々でしたいことにも対応するよう努めている。		
21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減っているが、散歩や買い物に行きたい等要望がある時は、すぐに対応するようにしている。毎月行っていた外食は現在行えていないが、少人数ずつで季節の花を見に行くようにしている。		
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己所有希望の方には自己にて所有し、病院代や買い物の支払いを自分で出来る様に支援している。お金を財布に補充する際は必ず金額を記録し、お金を使った際には領収書をご家族様に渡し、使途不明金が無いようにしている。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名が携帯電話を所持している。電話を掛けてほしいと希望される方には都度職員が電話を掛けて話をしてもらったり、利用者様に変わり用件を伝達している。本人宛の手紙が届いた時には本人に手渡したり、代読している。		
22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気の為、窓を開けていることが多い為、室温や湿度等気を付けている。常に整理整頓を心掛けている。オープンキッチンからはフロアが見渡せ、食事を作る音やにおいて生活感を感じることが出来る。毎月季節に応じた掲示物を利用者様と一緒に作成し掲示している。		
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食堂やテレビ前のソファ、自室にて自由に過ごせるようにしている。		
23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族様から意向を聞き、馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。本人の希望で部屋の模様替えをすることもある。		
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の部屋扉には手作りの表札をつけ、トイレなども分かるように表示している。車椅子を自走する方もいる為、動線上に物を置かないようにしている。自分で出来ることは自分で行って頂けるよう見守りを行っている。常に安全な環境となっているか検討し環境作りを行っている。		